

令和7年度 第1回 静岡市立小学校及び中学校通学区域審議会 会議録

- 1 開催日時 令和7年8月4日(月) 14:00～16:00
- 2 開催場所 静岡市役所清水庁舎 3階 304会議室
- 3 出席者 <出席委員>望月俊昭委員長、望月英夫委員、荒委員、井関委員、杉原委員、中村委員、三津山委員、大石委員
<事務局> 中村教育長、増田教育局長、西島教育局次長、小澤学校づくり推進監、内山課長、大塩係長、松崎主査、野毛主任主事
<欠席委員>杉山委員、告井委員

4 議事

<1 報告事項>

- (1) 小学校児童数・学級数及び中学校生徒数・学級数の実績及び推計について

5 会議内容要約

【開会】

【委嘱状・任命書の交付】

【教育長挨拶】

【委員の自己紹介】

【事務局職員の自己紹介】

【委員長・副委員長の選任】

【通学区域審議会の概要】

【議事】

(望月俊昭 委員長)

それでは、令和7年度第1回静岡市立小学校及び中学校通学区域審議会の議事に入らせていただきます。

本日の会議録署名人につきましては、私の他に1名の委員をお願いすることになります。望月英夫委員にお願いしたいと思いますが、望月委員、いかがでしょうか。

(望月英夫 委員)

はい。よろしくお願いいたします。

(望月 委員長)

よろしく願いいたします。

それでは、議事に入ります。本日の内容は、報告事項1件です。報告事項(1)「小学校児童数・学級数及び中学校生徒数・学級数の実績及び推計」について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

小学校児童数・学級数及び中学校生徒数・学級数の実績及び推計についてご説明いたします。

お手元の資料「報告事項」の1ページをご覧ください。

静岡市教育委員会では、令和7年5月1日の在籍数をもとに、市内各小中学校の入学率・社会増減率及び学年進級率を加味しながら、令和8年度から13年度までの推計を算出いたしました。

入学率というのは、学区に住んでいる入学前の5歳児や11歳児が、翌年4月に実際に入学した割合のことです。

社会増減率というのは、学区に住んでいる3～5歳児や9～11歳児の人数をその3年前の人数と比較した割合です。くわしく説明いたしますと、小学校の場合は、小学校区に住んでいる3年前の0から2歳児が、3年後の今年度、3～5歳児になるまでに、何人増減しているかの割合を出し、それを3で割って1年間の平均を求めたものです。同様に中学校の場合は、中学校区に住んでいる3年前の小学校1～3年生が、3年後の今年度、4～6年生になるまでの割合を算出して求めます。

学年進級率とは、学年初めの児童生徒数と学年終わりの児童生徒数を比較した割合です。くわしく説明いたしますと、小学校の場合、過去3年の、その小学校の1年生から5年生までの児童数を、次年度2年生から6年生に進級した児童数と比較し、3年間で平均どれくらい増減しているかの割合を出したものです。中学校の場合は、1年生と2年生の生徒数を、次年度の2年生と3年生の生徒数と比較し、割合を出します。

続いて、1枚めくっていただき、2ページと3ページの表をご覧ください。

はじめに、2ページの表の見方をご説明いたします。

平成13年度から令和7年度までの小学校の学級数・児童数と、令和8年度から13年度までの推計の表です。二重線が引いてあります令和7年度の欄をご覧ください。各学年の学級数と児童数が記載されています。この欄に記載された数字は、今年の5月1日現在の実際の数字です。左側の1年生の部分をご覧ください。今年の5月1日現在の小学校1年生の通常学級の数は、静岡市全体で、146学級、小学校1年生の通常学級の児童数は、市内全体で3,942人おります。上段の183という数字は、今年の5月1日現在、特別支援学級に在籍する小学校1年生の児童数を表しております。したがって、静岡市内の小学校1年生の児童人数は、通常学級の3,942人と特別支援学級の183人を合わせた4,125人になります。続けて、右側の合計の欄をご覧ください。今年

度は、静岡市全体で、通常学級の単学級が 955 学級、複式学級が 29 学級あり、26,755 人在籍していることを示しております。また、特別支援学級は、静岡市全体で 221 学級あり、1,236 人在籍していることを示しております。したがって、本年度の小学校の学級数は、通常学級の単学級 955 学級、複式学級 29 学級と特別支援学級の 221 学級を合計した 1,205 学級になります。そして、小学校の児童数は、通常学級の 26,755 人と特別支援学級の 1,236 人を合計した、27,991 人になります。

同様に、3 ページは、中学校の学級数・生徒数の平成 13 年度からの実績、令和 8 年度から令和 13 年度までの推計をまとめてあります。二重線がひいてあります令和 7 年度の欄の左側、1 年生の部分をご覧ください。今年の 5 月 1 日現在の中学 1 年生の通常学級の数は、静岡市全体で、142 学級、中学校 1 年生の通常学級の生徒数は 4,272 人です。上段の特別支援学級に在籍する生徒数 189 人と合わせると、静岡市内の中学校 1 年生の生徒数は、通常学級の 4,272 人と特別支援学級の 189 人を合わせた 4,461 人になります。右側の合計の欄をご覧ください。今年度は、静岡市全体で、通常の単学級が 451 学級、13,494 人在籍しています。また、特別支援学級は、静岡市全体で 104 学級あり、541 人在籍していることを示しております。したがって、本年度の中学校の学級数は、通常学級の単学級 451 学級と特別支援学級の 104 学級を合計した 555 学級になります。そして、中学校の生徒数は、通常学級の 13,494 人と特別支援学級の 541 人を合計した、14,035 人になります。

通常学級と特別支援学級を合わせた各年度の児童数、生徒数の実績と推計を、令和 7 年度を 100%とした割合が、2 ページと 3 ページの表の一番右側の数字になり、それをグラフにしたものが実線の黒色のグラフになります。これを見ますと、静岡市内の児童生徒数は減少傾向にあり、今後も減少傾向は続くと予想されます。続けて、特別支援学級に在籍する児童生徒数の推移についてです。平成 13 年度から今年度までの児童生徒の全体数が減少していく中で、特別支援学級に所属する児童生徒数は増加傾向にあり、今後も増加していくことが予想されます。

以上、本年度の「小学校児童数・学級数及び中学校生徒数・学級数の実績及び推計について」報告させていただきました。

(望月 委員長)

今説明があったものについて、ご意見やご質問がありましたらお願いいたします。

(大石 委員)

令和 8 年度以降の推計について私立の児童・生徒の数を含めているのでしょうか。それとも公立だけなのでしょうか。

(事務局)

公立のみの数の推計になっています。

(大石 委員)

静岡市としては今後、私立に通う子どもの数の把握をしているのでしょうか。どういう形で推計を算出しているのか見えづらかったため質問しました。

(事務局)

この推計としては自治会単位の学区で調査をしています。静岡市全体でも推計を出し公表をしていますが、児童生徒支援課としては0歳児から現在通っている児童・生徒の数を把握し学区ごと学校によって私学に通う児童・生徒の一定数を平均化し、例えば清水三保第一小学校区であれば例年どれくらいの割合で私学へ行き、地元の学校へはどのくらいの率でいこうというデータ分析し、推計データを作成しています。

中学校進学にあたっては、過去の平均的なデータを参照し、例えば清水三保第一小学校から清水第五中にどれだけの割合で進学するのかを計算し、次年度これくらい入るであろうという予測をしています。

(大石 委員)

現状だと実態が大きく変わってきているため過去の平均のデータに関しても参考にならないのではないかと思います。推計を作るにあたっては密に考えてほしいと思います。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。今後の参考にさせていただきたいと思います。

(三津山 委員)

令和9年度に統合を予定している久能小学校において、大谷小学校に通うために通学手段はスクールバスや公共交通等が考えられるが、どこまで話が進んでいるかわかる範囲で伺いたいです。

(事務局)

統合に向けた通学手段については、今後も開校準備委員会の中で地元の皆さまに周知しようと考えています。今現在としては久能大谷地区については山間地とは異なり、し

ずてつジャストラインが運行しているため、既存の公共交通機関をどのくらい活用できるかを検討しています。現状しずてつジャストラインを利用する場合は、乗り換えが必要になり、その乗り換への待ち時間が20分ほどあります。1つの選択肢として乗り換えをせずに東大谷のバス停から大谷小学校まで1kmちょっとのため、バス停からの歩きについても検討をしています。

(三津山 委員)

久能の地区は西平松、中平松、青沢、古宿、安居、根古屋の6つの地域があり、西平松と中平松の地域であれば歩いて大谷小学校には行けると思うが、青沢や根古屋になると大谷小学校まで5kmくらいあるので、小学生の1・2年生は歩くのは難しいと思います。

久能小は児童数も少ないため小さいマイクロバスがあれば十分だと思います。しずてつバスも東大谷までは来ます。しかし東大谷から根古屋まではほとんどバスが無く2時間に1本ほど。通学の時だけバスが来てくれればいいのではないのでしょうか。現状は具体的なことは決まっていないのでしょうか。

(事務局)

既存の交通機関をどの程度活用できるか。加えてもし活用しづらい部分があればしずてつジャストラインとの交渉の中で調整できないか検討していきます。どうにもできない場合は何かしらの方法を考えたいと思います。

(三津山 委員)

大谷小学校の近くに日本平観光のバス会社があります。その会社にバスをチャーターするのもいいのではないのでしょうか。久能の道路は非常に狭く乗用車でも対向して走ることは難しいため、今はあの道路は朝の7から8時までは一般車両は規制されています。

(事務局)

今後新しい選択肢として検討していきたいと思います。

(望月 委員長)

またこの議題については検討していく場があるということでしょうか。

(事務局)

そうですね。別途、学校開校準備委員会の開催を予定しております。今回は来年2月の開催を予定しており、そこでまとまった話をしたいと考えています。

(三津山 委員)

久能の自治会の方も非常に心配しています。どういう手段が一番いいのか。一番いいのはしずてつジャストラインが迎えに来てくれればいいのですが、そこまで遠いところにきてくれないだろうと思います。昼間のバスは運転手一人でバスは赤字経営のため、撤退してしまうと思われます。

(事務局)

児童が帰る時間とちょうどいいタイムスケジュールのバスがあるかどうか確認をさせていただきます。今のところ昨年度から検討する中で、バスは東大谷まではあると確認しています。ただ東大谷のバス停から大谷小学校まで1kmぐらいあるため対象の児童4名を歩かせるのかどうかを検討しています。

この問題については担当より、現在久能小学校の保護者とも相談をしながら現在進めています。しずてつジャストラインの状況については教育委員会も把握をしており、市長部局の公共交通を担っている交通政策課とともに協議しながら、しずてつジャストラインにも働き掛けをしています。一例を言うと東大谷のバス停の乗り換えについて、今のところ児童の登下校の時間について路線バスはあると把握しています。ただ、乗り換えに待ち時間が掛かる点については待ち時間を縮められないかをしずてつジャストラインに依頼をしているところです。一年半後の学校統合時に間に合うようにできればと思っています。これまでも他の地域にて学校統合をしてきており、それぞれの地域によって通学支援策があるがそれに合わせる形で学校が登下校の時間や授業の時間の日課を変更し子供たちが困らないようにしています。状況によっては大谷小、久能小の協力を得ながら、対応できればと思います。委員の皆さまや地域の皆さま、保護者の皆さまが困らない形で支援策を進めていくつもりですのでご承知おきいただければと思います。

(望月 委員長)

ありがとうございました。市としては地域の産業を守らなければならないという視点もあるのかなと思いました。他はどうでしょうか。

(望月 英夫委員)

推計のグラフの小学校と中学校についてなぜ一緒にならないのでしょうか。傾向として小学校の延長で中学校があるのになぜ一緒にならないのでしょうか。

(事務局)

今の質問については私たちもよく感じるころではあります。傾向としては先ほども小学校から中学校への進学時という話題がありましたが、小学校の私立等の学校数に対し中学校の方が学校数は多いです。特に県立中学校もあるような状況もありまして、附属国立についても島田の方の学校までJRを使って通う生徒もいます。もちろん東部の方の中学校へ行く子もいます。中学生になると幅広く行動範囲が変わってきて、その関係で小学校6年生の卒業生がそのまま市立の中学校に進学するわけではないということからグラフのつながりが無くなってきているが現状かと思えます。

(望月 英夫委員)

中学で多様な進路に行くとなると小学校のカーブは緩やかにいき、中学の方は逆にガクッと来るのではないのでしょうか。

(望月 委員長)

変化ですので相対的に落ちますが、グラフのライン自体は急激に落ちるわけではないと思えます。あともう一つ考えられるのは小学校は6学年が母集団になっていますが、中学校は3学年が母集団な点も影響しているのかなと思えます。一番大きい影響は事務局が言う通り、小学校から中学校に進学する際、私学へ行く子が多くいるという点だと思えます。

でもこれからますます子どもの人数が減っていってしまうなど、危機感を感じてらっしゃるのではないかと思います。ただ、特別支援学級のお子様は増えているみたいです。推計上分からないかもしれませんが、特別支援学級のお子さんは今後も増え続けるのでしょうか。

(事務局)

推計上出すことはできないですが、現状実態としては増えていくであろうと思えます。一つの根拠としては本市でも子ども未来局が今現在、試行的に始めている、5歳児健診

というものが本市でも始まっています。これは将来的に本格的に実施される可能性があり、全国的にはこの5歳児健診は広まってきています。この5歳児健診は何かと端的に言うと、お子さんたちの発達状況を把握し、お子さんと保護者様へ早め早めに支援ができるようにしています。これまでは3歳児健診や小学校入学前の就学時健診で見えてきたところが、早めに分かることで、早めに必要な支援ができることから、保護者様が特別支援学級を最初から希望することは考えられるため、特別支援学級の人数は増えていくであろうと考えられます。

(望月 委員長)

ありがとうございます。もし分かれば教えていただきたいのですが、中学校の方のグラフを見ると平成17年度から平成23年度くらいまではほぼ横ばいか少し上がっているように見えますが、何か理由があるのでしょうか。

(望月 英夫委員)

この時期は日本全体の人口が増えていた時だからではないでしょうか。

(望月 委員長)

なるほど。ありがとうございます。ということでこの推計を見た通り、子どもが減ってってしまうなと感じます。まだ発言されていない方がいましたらいかがでしょうか。

(三津山委員)

子どもの数が増えている学校は静岡市内にあるのでしょうか。

(事務局)

増えている学校は無く基本は減少していると思います。一時、増えた学校もありますが、先ほど担当から説明がありましたが、指定校変更ということで子どもを預ける、その預け先が今居住している地域とは違うという形で指定校変更するという、働くのに通うのに便のいいところ、そういった学校に子ども転校させるというケースがあって、一時一部の学校が増えるということはありません。

(三津山委員)

私が今住んでいる地域は大里東小学校区で、住宅範囲がマンモス校になってしまった

ため、宮竹小学校と半分に分かれましたが、逆転してしまって今は大里東小学校は150人くらいしか児童がいません。しかし宮竹小学校は増えるばかりで1学年3クラスくらいあります。大里東小学校は1学年35人なんかとてもいなく、30人を割るかどうかです。大里東小学校地区は人口が減るばかりになっているのに対し、宮竹小学校は、マンションが増えてきて若者が居住・移住する人が多いみたいです。

(事務局)

そうですね。そういう宅地開発であるとか、マンション建設によって、一時増えるということはどこの学校でもある傾向です。宮竹小学校についても基本的には減少していく流れになっています。

(三津山 委員)

今度、まったく違う話になってしまうけれど、日本平久能山スマートインターの南側で開発があり、5年以内にコストコなど、大きい企業の誘致があり、全体的に人口が増えるとされています。難波市長が頭の中に描いている大きい構想では、大きな街が大谷地区にできるのではないかと思います。私もすぐ近くに住んでおり、コストコもできるため、すごく楽しみにしています。

加えて近隣には静大や県大、常葉大学があるため、大学を卒業したら若者を他県に行かせず留めるような計画を立て、大谷小学校や宮竹小学校とたくさん子どもが増えることを願っています。

(望月 委員長)

ありがとうございます。今後も動向が注目されますね。それではよろしいでしょうか。貴重な意見ありがとうございます。それでは最後になりますが、今年度の予定について事務局からよろしく願いいたします。

(事務局)

今年度の審議会ですが、第2回を10月20日(月)午後2時、第3回を12月23日(火)午後2時開始で予定しております。また第2回につきましては先ほども申し上げました学校統合に関する通学区域の変更、第3回目につきましては、特別支援学級の新設に伴う通学区域の変更について予定しております。どうぞよろしく願いいたします。

(望月 委員長)

ありがとうございます。皆さま、今日は貴重なご意見をありがとうございました。皆

様のご協力により、スムーズに審議が行われました。ありがとうございました。
以上をもちまして、本日の審議会を閉会します。

【閉会】

会議録署名人 望月俊昭

望月英夫